

さくら

題字 足立区長 近藤 やい

足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会 長 中 田 貢 弘
編 集 広 報 部 会
発 行 日 2010年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5111



千寿常東小4年 樋口 恋 作「黒猫と白猫」

目 次

民生・児童委員全員研修会	2
広報部会座談会	3
子育て応援団	4
介護ってなあに	5
つながる社会をめざして	6
自主研修会	7
言葉は命をつむぐ	8
広報アンケート報告	8



お礼のご挨拶

足立区副区長 石川 義夫

本年6月に副区長に就任いたしました。足立区民生・児童委員協議会の皆様には、平成10年度から福祉管理課長として3年間、14年度から福祉部長として3年間、計6年間、お世話になりました。その後もいろいろな場面でご指導いただきました。改めてお礼申し上げます。

さる9月10日の「世界自殺予防デー」駅頭キャンペーンにおいては、直前のお願いにもかかわらず、多数の先生方にご協力いただき、ありがとうございました。さらに、ゲートキーパー研修を3年間で全員が受講されると伺っております。自殺対策は、緊急課題です。高齢者の見守り、実態調査のご協力等々と併せ、重ねてお礼申し上げます。

さて、足立区では、「美しいまちは、安全なまち」を合言葉に、犯罪をなくす運動、「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を展開しております。ゴミの落ちていないきれいなまち、近隣の人々が挨拶をしようまちは、互に関心を持ち合っていることがわかり、犯罪者が敬遠するそうです。

犯罪のないまちは、都市の魅力、イメージを高めます。皆様には、そういうまちの地域ぐるみの見守り、安心・安全なまちをつくる中核として、また、区行政の最良のパートナーとして、「無縁社会」に縁のない足立区をつくるために、今後とも一層のご尽力をお願いいたします。



近藤足立区長



中田連合会長

処暑を過ぎても猛暑の続く中、数多くの来賓をお招きし、全員研修会が実施されました。

第一部、幕が開くと、足立ジュニア吹奏楽団による演奏がありました。

昨年度に20周年を迎えたこの楽団は、見事なチームワークで、素晴らしい演奏でした。「プロモーション」「笑点のテーマ」に続いての3曲目「ロックトラップ」は、楽器を使わず、手や膝を打ったり、足踏みしなどのリズムだけで構成されており、みんなビックリ、大きな拍手を送りました。

安藤第一合同会長の司会で、区歌「わがまち足立」の斉唱、猪俣第二合同会長による信条朗読、宮崎会長職務代理の開会の挨拶、中田連合会長による主催者挨拶がありました。来賓を代表して近藤足立区長、前野足立区議会副議長、大谷東京都民生児童委員連合会副会長、宮村前東京都福祉保健局生活福祉部地域福祉推進課長よりあたたかいご挨拶をいただきました。

そして、近藤区長より広報紙「さくら」に絵画掲載で協力していただいた児童への感謝状贈呈が行われました。

第二部では、本年は一斉改選の年にあたりますので、宮田第三合同会長の司会で、任期三年間の専門部会活動報告が行われました。中浦子育て支援研究部会長、大室児童福祉研究部会長、江川障がい者福祉研究部会長、根本島生活福祉研究部会長、下嶋高齢者福祉研究部会長、高野広報部会長、小泉主任児童委員部会



長の報告がありました。

その後、近藤区長より「誇りの持てるまち 住みたくなるまち あだちを目指して」をテーマに講演がありました。足立区以外の方が、足立区に持っているイメージと、実際の区民の行政・生活全般への満足度には開きがある。そのことによって誇りを持ってない区民が多くなっているとお話でした。区民が誇りを持つための治安対策、生活保護制度への行政の取り組みを、時に楽しく、時に熱く語ってくださいました。

最後に民生委員の歌「花咲く郷土」を斉唱し、有賀福祉部長の挨拶で会を閉じました。

暑い中、多数の来賓の方に出席いただきありがとうございました。各種団体とのネットワークを育てるうえで今後ともご指導よろしくお願いします。

〔追記〕 昨年の全員研修会で、津軽三味線を演奏していただいた、弟の銀三郎さんが本年度、全国大会で優勝したとのこと、おめでとうございました。

(広報/江南・新田地区 楠美順二 記)



▲「花咲く郷土」を歌う各地区会長

感謝状を受けた児童へのインタビュー

区長から感謝状を手渡され、緊張気味だった子ども達も控室に戻って、ホッと一息のようでした。

Q 区長から感謝状をもらってどうでしたか？

A 緊張しました。1回おじぎをするのをわすれました。

Q どんな絵を描いたのですか？

A 工場の絵です。空想の工場です。

A 花屋敷に遊びに行った時の絵です。

A 日光の赤沼分岐点の絵を描きました。

ご父兄の方にも聞いてみました。

「子どもの絵が『さくら』に載る連絡を受け、大変おどろきました。」「絵の提出から半年位経っているので、突然のお話にビックリしました。」などのお話があり、一様に皆さん喜んでいました。素敵なお話をありがとうございました。

(広報/井上みよ子・河邊セツ・北川富美子 記)

民生委員・児童委員宛

災害時一人も見逃さない運動

千住地域のジュニアリーダー研修会

千住地域では、5つの少年団体協議会（第一・第二・第三・第十五・第十六）が協力して、小学校4・5・6年生を対象としたジュニアリーダーの研修を実施しています。

本年度は、第十六地少協の担当で、千寿常東小学校の体育館において、山田誠校長先生並びに西田眞理副校長先生の全面的な協力のお陰で、千寿常東小並びに



千寿第八小他4校から26名の児童の参加があり、葉袋（みない）久美講師にメリハリのある有意義な研修を行っていただきました。

研修の内容は「絵本で綴る僕・私の将来」を始め23種類のカリキュラムを通して、ジュニアリーダーとしての資質と技術を磨きました。修了者23名、うち皆勤賞13名と優秀な成績を修めましたので、児童が在籍する各校長先生に連絡し、朝礼等で健闘を讃えていただきました。

今後も、学校や地域での活躍を期待したいと思います。

（常東地区主任児童委員 加藤鈴子 記）

民生・児童委員 広報部会 座談会 7月7日

今期（11/30）退任する部員を囲み、秋本委員を司会者として、退任者との座談会を開きました。

司会者 広報部会設立後、さくら創刊時（2003年3月1日）のご苦労についてお聞かせ下さい。

高野 初代の平田部会長をはじめ、創刊当初から有能な人が多かった部会でした。

細井 25地区から選出された人が全員初めて会った人なので、部会での話し合いだけでなく、再度の編集会議もしました。慣れてきてからは話し合いに方向性をつくり、充実した話し合いと協力によってまとまってきたと思います。

司会者 編集のご苦労についてはいかがでしょう。

山下 広報さくらの読み手から作り手となって、半年悩みました。原稿を書くこと、依頼することは、大変なことだと思います。絵を借用するタイミング（3学期）には注意が必要です。

司会者 校正のご苦労についてはいかがでしょう。

田中 活字からパソコンへの移行という社会背景のなかで、文章修正や送りがなの難しさを知りました。

下田 自分が日本語をあまりにも知らないことを、知りました。校正の勉強会が役立ったと思います。

大久保 校正の仕方を再認識しました。言葉のニュアンスを表現するのが難しかったです。

北川 読み易い文章に修正することのよし悪しもあると思いました。

司会者 広報部をやってよかったことは何でしょうか。

大久保 ものをつくる喜びがありました。

大木 4つの部会を経験しましたが、楽しい部会でした。さくらを皆で作っていくことがよかったです。

山下 他の広報を読むとき、自分は作り手と読み手の立場で読むようになりました。

細井 25地区の委員との交流で、親しい友人もでき、自分の財産となりました。私個人としてはパソコンの使用を断念したことが残念でした。

高野 ワープロからパソコンを活用するようになり、文章、表、パンフレット等の作成力を得たことです。

司会者 これからの広報紙に望むことは何でしょうか。

楠美 民生・児童委員の活動意識に違いを感じています。そのレベルアップのための広報紙にしたいです。

秋本 書かれた原稿には、その人の個性があります。その個性を生かして、読手にわかりやすい校正をしたいです。自分も色々な文章を読んで、校正力を高めたいと思います。

森 広報紙さくらを、今後とも皆で育てていくため、頑張っていきたいです。退任される人にも見守っていただき、さくらを読んでほしいです。

高野 今までの広報部会員が、しっかりした基礎を作っておいてくれました。新メンバーで協力し、よりよい「さくら」を作っていって欲しいと思います。そして、ずっと和やかな部会であって欲しいと願っています。

（広報 森春枝 口述筆記）



ひがくり YY (わいわい) クラブ

足立区では「放課後子ども教室事業」の愛称を『あだちキッズぱれっと』と名づけ、平成19年度にモデル校ができました。平成20年度から3年計画で、小学校全72校での開設を目指しています。

この事業は、平成19年度から、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業（学童クラブ）」を合わせたものを「放課後子どもプラン推進事業」とし、全国の小学校区での実施を目指しています。子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との体験・交流活動等の



取組みを推進しようというものです。

東栗原小学校では、開かれた学校づくり協議会、区教育委員会、(財)生涯学習振興公社、学校が連携し、準備委員会、実行委員会、スタッフ研修を経て、「ひがくりYYクラブ」が今年4月21日にスタートしました。YYクラブは、放課後の小学校の図書室、プレイルーム、校庭を活用して、地域住民や保護者OB等から募った運営スタッフにより、子どもたちの見守りを行っています。現在、子どもたちは、毎週水曜日、4年生から6年生まで一緒に遊んだり、勉強したりしています。けんかもありますが、スタッフの見守る中、児童もとても元気で明るく楽しそうにしています。子どもたちが、大人になったとき、自分で考え、判断し、柔軟に対応できる力をつけてほしいと考えています。

(ひがくりYYクラブ実行委員長

東栗原地区民生・児童委員 野口義雄 記)

伝承遊び

1年生の生活科の一環として、昔遊びを一緒にやってほしいと東伊興小学校からのお誘いをいただきました。そこで、今年初め、担当の民生委員で、羽子板・あやとり・コマまわし・紙風船の4種の遊びを約90名の児童と一緒に体育館で行いました。10分間ずつのローテーションで、皆が全ての遊びをできるようにしました。

初めて羽子板を持った児童は、どっちの面で羽根を打つかわからず、遊び始めても細長い板に羽根がなかなか当たらず苦勞していました。あやとりや紙風船は皆、上手にできていました。さすがに、男の子はコマを回すのが上手でした。私たち、民生委員も童心に返り、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

感想は、「楽しかった」「おもしろかった」「また一緒にやりたい」「ありがとう」と一人一人のメッセージが詰まったものでした。



今年もお話があれば、皆で楽しいひと時を過ごしたいと思っています。

(広報/15地区 北川富美子 記)



大谷田小2年 冷牟田菜々葉 作

足立区立江南中学校

暑さにもどうにも負けぬ田のこと

石井あすか

苗整列縦横斜め僕らみたい

松丸 仁

空青し暑さとともに稲育つ

喜本 和輝

田を植える命を増やす人々実も

川本 優

土の中未来の食を植えていく

鴨下 優衣

稲植えるその瞬間に米の親

茅野 大義

中学生俳句コーナー

介護ってなあに——シングル介護 その後 ②

23号で紹介した続きです。NHK特報首都圏番組で評論者は、シングル介護者が苦しみ抜いた末、破局的に親の殺害に至る事例を次のように説明していました。

親に対する愛情と自分の責任感が強いと、一人で介護を抱え込むことで負担となり、苦しみとなっていきます。周囲の人間は、介護している人を評価し、支援する（経済的にも）ことが必要であるとのことでした。

このような、地域社会との接点が希薄なシングル介護の場合、どうしても独自の思考に偏り、悲劇的な結末になりやすいようです。

事例③ 地域ネットワークで介護者を助ける某地域の「鈴の会」を紹介。地域の介護者を孤立から救い出す目的で、介護者同士のグループを結成しました。事例の男性は、重度認知症の母を介護するため退職し、母の年金での生活でした。この会に入ってから同じ痛みを持つ仲間を知り、悩み相談、メール交換などにより癒されました。今では、移送ボランティアをするなど地域での活動も始めています。このような立ち直りと新たな展開が紹介されていました。

この現代社会の中で、民生・児童委員としてもこうした実情把握は、不可欠のことと感じました。

（広報／6地区 森春枝 記）

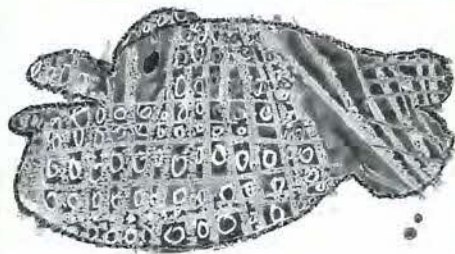
ごぞんじですか？ 介護保険で受けられる深夜介護

いま、地域密着型サービスとして「夜間対応型訪問介護」が注目されています。1人で生活するお年寄りが転倒した場合や日中働く介護者が深夜におむつ交換の負担がある場合など、様々な不安に対応するサービスです。費用も介護保険が適用されるので（要介護1

以上の方が対象）、自宅での介護の強力な後押しになるものと思われます。実際に現場でサービスを提供していただいている株式会社ジャパンケアサービスさんにお話を伺いました。

（広報／10地区 川島恵美子 記）

「夜間対応型訪問介護」は、夜間安心して過ごしていただくために、平成18年4月からスタートした介護サービスです。ご自宅に「ケアコール機」を設置し、以下の3つのサービスを提供します。



千寿常東小4年 青木花菜 作

- ①病院と同様に、ケアコールボタンを押すとオペレーターと会話ができる「オペレーションセンターサービス」
- ②緊急時に

は主治医への連絡や救急車の要請も行います。

- ②必要に応じてヘルパーが訪問する「随時訪問サービス」

- ③決められた日時に訪問する「定期訪問サービス」
- 転倒時のケアや排泄介助がほとんどですが、「不安で誰かと話したい」という方もいらっしゃいます。関係機関とも連携を深め、安心して在宅生活をお過ごしいただけるよう努めています。お申し込み方法は、ケアマネージャーにお問い合わせください。

料金のおめやす（1カ月：介護保険利用）

オペレーションセンターを設置している場合

- ・基本料金 1,105円
- ・定期巡回 1回 421円
- ・随時訪問 1回 641円～862円

（株式会社ジャパンケアサービス 記）

お茶べり会を立ち上げて！

集合住宅へ転居してきたKさんは少々うつ状態でしたが、買い物等で会うたびに声をかけることで、笑顔を返してくれるようになりました。それを機に、集まって物を作ったり、おしゃべりをしたりすることができる会があればと思いました。社会福祉協議会と地域包括支援センターからの勧誘もあって、今年2月に「お茶べり会」が誕生し、明るく伸びやかにと会の名前は「ひまわり」と命名しました。会を立ち上げて集まってくださるか少々不安でしたが、会員数は10

名となりました。

3月は自己紹介を兼ねて魚や野菜の名前をつけてフルーツバスケットゲームをして、大笑いし、たいへん盛り上がりしました。5月はお手玉作り、色とりどりの美しい作品が完成し、入谷翔裕園に届けました。6月は折り紙3枚でコマを折りました。世の中のすべてがうまく回るように、いつまでも仲良く続くようにと願いを込めて……。

（14地区 元会長 長野照子 記）

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり

第1回 身寄りのないことの危険

平成22年1月、NHKの早朝番組の生活ほっとモーニングで足立区社会福祉協議会の活動が紹介され、全国から多くの反響がありました。

権利擁護センターあだちが行う高齢者あんしん生活支援事業を利用している身寄りのない一人暮らしの高齢者が紹介されました。この事業の契約で自分が終末期まで継続的な支援を受けながら暮らせるようになった安心感を話していました。高齢化、核家族化、少子化、非婚化等、現在の日本では身近な親族の支援を期待できない高齢者が増加する要素が揃っています。足立区の高齢者単身世帯は現在約4万（平成21年度）、毎年2千世帯ずつ増加し続けています。

地域包括支援センターに寄せられる地域からの相談の中に、「最近一人暮らしの高齢者の姿を見かけない。尋ねてドアをたたいても電話をしても応答がない。部屋の中で倒れているのではないか心配だ。」という通報があります。このような場合、地域包括支援センタ

ーと民生・児童委員、警察等が協力して安否を確認します。どうしても確認できない場合には、鍵の業者を呼んで開錠し、安否確認をすることもあります。

部屋の中で数日前に倒れて起き上がれない高齢者の方が見つかる場合もあります。

身寄りのないことの危険、それに地域としてどのように立ち向かって行けば良いのか。そのためには行政の縦割りの業務範囲を超え、区民や企業との協働を最大限取り入れた新しい発想の取り組みが必要となっています。（足立区福祉部中部福祉事務所 記）



千寿第八小1年 鴨川莉瑚 作

アルコール依存症について

「酒は百薬の長 されど万病の元」と続くのを皆さんご存知でしょうか？ 酔いを求めるあまり、飲酒量の度が過ぎ、それが長年続くと体と心の両面をおかす毒に変わります。さらに、本人だけでなく、家族・職

場・社会にまで大変な被害を与えてしまいます。

「お酒のことが頭から離れず、仕事も手につかなくなった。窃盗もしてしまった。」



東洲江小1年 金 守夏 作

「自分がアルコール依存症だと認められなかったが、結局は家族にも迷惑をかけてきた。」

これらはいずれも、アルコール依存症の方の体験談です。

依存症の進行を食い止めるためには、断酒を継続し続けるしかありません。しかし、一人で続けるには限界があります。病院に行く、薬を飲むといった方法以外に、何よりも力になるのが自助グループです。ここでは、断酒を目標にした仲間が集まり、体験や気持ちを共有し、自分自身と仲間を支え合っています。

依存症は、とかく意志が弱いと思われがちですが、自分の力でやめられない病気です。もし、皆さんの近くに悩んでいる人がいたら、ぜひ地域の保健師や病院の専門外来などへご相談ください。

（千住保健総合センター 齋藤美穂 保健師 記）

さくらニュース

街かど福祉 その4 工務店

今回は足立日吉町会内で工務店経営35年になるという、橋本さん取材しました。

10年前の介護保険導入後、改修工事が次第にふえたとのこと。

1. 病気、事故により車いす生活となった際の対応として

- 室内をフローリング化する。
- 玄関、廊下、階段に手すりをつける。
- 風呂場のユニット化により段差をなくす。
- 風呂場の壁面に手すりをつける。
- トイレを洋式化する。

などがあげられます。今やこれらのことは、健常者

でも若い世代でも取り入れられてきています。

2. 防火、防災面での対応として

- 台所のガス燃料から電化へ移行する。
- 地震による転倒防止として、タンス、茶ダンス、本棚を金具で固定する。
- 火災警報器を設置する。

最後に橋本さんは、今後さらに普及していくものは、油圧式のホームエレベーターの設置であろうとのことでした。個人の要望に応じてオーダーメイドで改修することが大切であると学びました。

（広報／6地区 森春枝 記）

雨が心配された4月20日、常東地区民生・児童委員の自主研修が行われました。

研修先は、栃木県足利市にある知的障がい者更生施設「こころみ学園」です。柳川会長をはじめ区役所民生係から田中主査など総勢22名を乗せたマイクロバスは、朝7時30分に北千住駅前を出発し、車中では柳川会長、田中主査から挨拶をいただいた後、「こころみ学園」のビデオ鑑賞で事前学習を行いました。画面には急斜面を開墾して作られた学園と、葡萄畑やワイン工場、椎茸栽培、そしてそこで働く園生が映しださ



れ、みな映像に釘付けになりました。

車中での事前学習が終わるころ、渋滞もなく順調に目的地に到着

しました。ビデオに映し出されていた風景が眼前に広がりました。到着が若干早かったため、売店での買い物を済ませた後、現地での研修が始まりました。

まず最初に、事務局長から園の概要や、園での生活等の説明を受けた後、宿舍、ワイン工場、葡萄畑の見学をしました。一生懸命に働く園生の姿を目にすることができました。ビデオ、そして現地での事務局長の話は、どれも感銘を受けるものでしたが、特に「貧乏でもよい、みんなで汗をかいて働く。働くことが精神をも安定させる。自分のできることをし、決して強制しない。障がい者だからできないではなく、やらせてみる。そうすることにより園生も誇りと責任をもつようになる」という言葉に、人権の大切さを感じました。

2時間あまりの見学を終え、このような施設がひとつでも増えることを念じ、園を後にしました。

(常東地区 木下義男 記)

じゃがいも掘り ― 青少年対策中央南地区委員会主催 ―

ジャガイモ掘りバスハイクは、20年以上もの長期にわたって行われている子ども主体の行事です。バスハイクというくらいですから、大型バス6、7台で350人前後が参加し、時期は毎年6月の第1日曜日です。

行き先は千葉県佐倉市の「草笛の丘」で、緑広がる丘の上に農業公園があり、いろいろな施設が併設されたキャンプ場です。キャンプ場には、かまどを備えた野外炊飯設備があり、それを使ってみんなで昼食を作りました。

ジャガイモ掘りは、キャンプ場から歩いて5分ほどのメイクイン種が植えられている畑で行いました。子どもたちで掘ったジャガイモはおみやげ用にし、役員が掘ったジャガイモで昼食を作りました。大きな鍋でカレーや豚汁、ジャガバターなどを作り一緒に食べました。昼食が終わると、子どもたちは公園の中を時

間いっぱいまで走り回っていました。

かまど炊飯設備の上には屋根があり、屋根裏に雀が巣を作っていたことがありました。下で

薪を燃やしていると、上から雛が落ちてきたこともありました。また、ヘビのアオダイショウもいたりして自然がいっぱいです。最近バラ園も整備されて、大変美しい花を咲かせています。みんな一日を楽しく満喫して帰途につきました。

(足立日吉町会 町会長 金井弘好 記)



東洲江小3年 庄子侑希 作

ぶらりあだす

六町神社新たな誕生

六町神社が、新たに生まれ変わりました。



区画整理事業のため、2009年9月に現在の場所へ移された六町神社。今年、平成22年の初詣は、新しい神社への参拝者が、いつもの年をはるかに上回りました。イベントも盛り上がり、華やかな幕開けに、役員の方々のご苦勞が実ったことと思います。

六町神社は、伊邪那岐命・伊邪那美命・天照皇大御神・誉田別命の四神をお祭りしています。是非、生まれ変わった六町神社にお立ち寄りください、とのこと。

(広報/17地区 石鍋昭男 記)

足立区は活動記録提出 100 % 継続中です

言葉は命をつむぐ



植物の育成には肥料が大切な栄養素であるように、人の成長には、声かけ（声＝こえ←肥）が大変重要です。

温かな思いやりにあふれた言葉のシャワーを浴びて育った子どもは自信に満ち、自己肯定感をもって人との関係を良好に保つことができます。反対に嫌味やとげとげ

しい言葉聞きながら育った子どもは否定的な感情をもち、対人関係に課題をもつ傾向が見られます。

私達は、言葉を選んで使い分けることができます。相手を認め、励ます言葉を発することで、命さえ永らえさせることができます。90歳を超えた父の口ぐせは「こんなうまい料理を食べさせてもらえて幸せだ。ありがたいものだ。」でした。父は80歳代後半から認知症が始まり、一日に同じことを何度も母に尋ねていましたが、その度に丁寧に答える母でした。二人のやりとりの姿から、私は「言葉が命を紡（つむ）ぎ合っているようだ」と感じ、長生きの秘訣を教えられた気がしました。

がしました。

子どもの成長に強い影響を与えるのが、家庭内での言葉、とりわけ母親の言葉遣いです。「すごいね。よくがんばったね。ありがとう」等、声をかけられて心地よくなる言葉がたくさん使われるよう、自己反省も含め、努力していきたいと思っています。

（教育委員会 高橋悦子氏 記）

千寿常東小・長門小・千寿第五小等の校長先生を歴任された高橋先生には“さくら”創刊時に、子どもたちの発表の場が増えればと、表紙絵、カット絵などの提供等で応援していただきました。



長門小5年 眞野紗耶加 作

（広報部 記）

広報紙「さくら」アンケート報告

- 介護・認知症等、これから自分がぶつかって行くことを思うと、ぜひ取り上げていただきたいと思います。
- 各専門部会の活動内容を詳細に載せてください。
- ダイジェスト版は良いアイデアだと思います。忘れていたことが思い出され、懐かしく読みました。これからも頑張ってください。応援しています。
- いつも広報紙を作成していただきありがたく思っています。広報紙を通して民生委員がどうあるべきかを考える、良い機会になると思います。

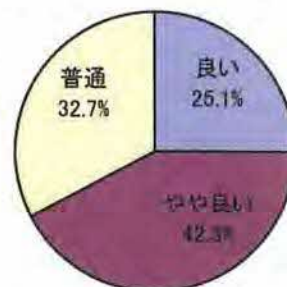
多くのご意見、ご感想並びに励ましのお言葉をいただきました。総合的に発行当初より紙面が見やすく、内容が充実してきているとの評価をいただき、個々の

広報紙「さくら」アンケート報告 配布数 900
回答 431 (47.9%)

活動の参考にしておられます（グラフ参照）。寄せられたご意見の一部をご紹介しますとともに、今後の紙面作りに反映させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

（広報部 記）



以前の比較

編集後記

お願いした中学生の俳句の原稿をいただきに学校へ行くと、校長室に通されました。3人の娘が通った中学校です。PTAの役員会議で座った長椅子は20数年振りでした。歴代の校長先生の写真は懐かしく、ふと当時のことを思い出してしまいました。

「さくら」の編集に関わっていることで地元の学校との繋がりもまだまだあることを再認識した1日でした。

（広報／東綾瀬地区 河邊セツ 記）

訃報 第五合同 江南・新田地区 小泉貞廣（コイズミ サダヒロ） 殿 謹んでご冥福をお祈りいたします

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。また、皆様からの原稿を募集いたしております（原稿は未発表のものに限ります）。 次号発行予定日 3月1日

なお、原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報部会

部長	高野 幸	副部長	宮本 勝男	会計	川島 恵美子	編集	渡邊 照美	編集	森井 力造	校正	田中 榮一	秋本 雅信	編集委員	池田 信江	楠美 順二	阿部 美代子	石川 昭男	山下 節也	北村 信也	校正委員	下田 尚保	大久保 義子	大木 ヨシイ	清水 千鶴	河邊 セツ	井上 みよ子	藪下 奈穂美	江川 せつ子	北川 富美子	鈴木 重子	栗野 昌子
----	------	-----	-------	----	--------	----	-------	----	-------	----	-------	-------	------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	------	-------	--------	--------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	-------	-------